



旧小浜小学校跡地（武田氏館跡関連遺跡）

平成21年10月3日（土）発掘調査現地説明会より

若狭武田氏について

今から約500年ほど前、安芸武田氏の武田信栄が若狭守護職一色義貫を倒したことにより、若狭武田氏の流れが生まれ、約130年間、若狭国を治めることになりました。5代目の武田元光が若狭の守護職になったころは、他の国との戦いや国内の治安も不安定になりました。そのため、大永2年（1522）から小浜西部地区にそびえる後瀬山の山頂に、城郭を築き、その北側山麓に屋敷を建設し、戦国時代により適応した政治拠点の確立を図りました。そして後瀬山城は京極高次によって小浜城（雲浜城）が築かれるまで国政の中心となりました。

旧小浜小学校校地での調査は平成18年度から始まり4回目の調査となります。

若狭武田氏の住まいが旧小浜小学校校地から空印寺にかけてあったというのは昔の人が書いた本や古い絵図から想像されるだけで、本当にあったかどうかの確認調査をする必要がありました。18年度と20年度調査では、旧小学校校庭の西側(妙興寺側)で石垣を伴う堀が確認されました。しかし北側（同校プール跡地）と東側（八幡神社側）の当時の状況は明確ではありませんでしたので、今回改めて発掘調査を行いました。



説明を受ける見学者

今回、旧小浜小学校校地の3箇所を発掘してわかったことはプールがあったところ（北側）と少し離れた正門があったところ（北側）の2箇所から石垣と堀跡が見つかり、石垣をともなう

今回、旧小浜小学校校地の3箇所を発掘してわかったことはプールがあったところ（北側）と少し離れた正門があったところ（北側）の2箇所から石垣と堀跡が見つかり、石垣をともなう

堀が存在したことがわかりました。八幡神社側（東側）は堀跡は見られず、調査から塀のようなものがあったのではないかと考えられます。そのため、若狭武田氏の屋敷は絵図に描かれていた通り、西側と北側に逆L字形に巡らせるものであることがわかりました。



地層の様子を説明

街路整備要望案作成委員会 活動報告

小浜西組町並み協議会では、行政に要望することを作成するための「街路整備要望案作成委員会」を発足させました。

重伝建地区にふさわしい街路景観等を整備することを目的に、電線の地下埋設の話に関西電力の担当者に、現地を歩きながら説明をしていただきました。（参加者：町並み協議会5名 市職員2名）

電線の地下埋設には『完全地中化』と『ソフト地中化』という方法があり、完全地中化とは、電柱を撤去して電線をすべて地下に埋設することです。この方法は莫大な費用がかかります。小浜西組の場合は道路幅が狭く、変圧器の設置場所がない（私有地を借用しなければいけない）ので大変難しいということです。そしてソフト地中化とは幹線だけを地中化して、変圧器などの機器を電



町並み景観を損ねる電線と電柱の様子を視察

柱に設置し、そこから各家に電線を引き込む方法です。三丁町はこの方法で行えるのではないかという感じをうけました。小浜住吉区はこの『ソフト地中化』が行われました。

そしてもうひとつ別の方法があります。電線だけを整理する『美装化』という方法があります。電線は道路をまたがないように、道路に沿って整理していきます。電線の地下埋設が無理だと思われる丹後街道、白鳥貴船の通り、八幡神社の通り、常高寺の通りも電線を整理するだけでも景観はよくなるのではないかと思いました。

投稿コーナー



私がここ小浜西組に入区して早いもので10年が経ちました。共働きの為、両親に子供の守りをお願いしたくて引っ越してきたものの、祭りをはじめとした町のことも知らないまま、少し不安を抱きつつの入区でした。

幸い自宅が商売をしていたので、自分から行かなくても地域の方々が店に来て下さり、顔見知りになって馴染むのは早かったと思います。

また、学生時代の先輩や知り合いが地域にいたことも助けになりました。子供が大きくなるにつれて輪が広がっていき、最初の頃抱いていたあつくうな近所付き合いのイメージはほとんど消えました。

さて、この町に住んでいて良かったのは、子供を育てるのにとてもいい環境だった事です。ベビーカーに乗せて海へ、公園へといっぱい歩きました。知らなかった店を見つけて掘り出し物を買ったり、曲がりくねった道をあちらこちらと自転車で走ったり、まるで子供のように…。

夏はなんといっても目の前の海が最高です。子供の頃、父によく海に連れていってもらった記憶があり、歩いてすぐのこの海は何よりの場所です。子供と一緒に泳ぐのは勿論、岩の間をのぞいて貝をとったり、砂浜を走ったり、穴を掘ったりと遊ぶのには事欠きません。趣味にしている短歌の材料にも、もってこいの環境です。



この地域が重伝建に選定された事は、子どもたちにとって「地元はすごいんや!」という意識付けするのにはとてもいい事だと思います。

このまま町がさびれていけないためには、やはり若者がいて、それを見守ってくれる年長者がいて、その環境の中で育つ子供がいれば、それは大きな意味での三世代家族を形成することであり、そこに繋がりつなが生まれ、温和な心、慈しみいっくの心、互いを思いやる心を自然と育てていけるものだと考えます。

少子化が叫ばれる昨今、保育園も統合される時代です。第一・第二保育園の場合も旧小浜小学校跡地に保育園的施設を造り、この豊かな自然と地域の温かい眼差しに囲まれて子供を育てていけたらどんなにいいだろうと思います。地域の中に子どもたちの声があふれる…想像するだけで、顔がほころんできます。

小浜の歴史を知る博物館を造ることも、地域を守る為の防災施設を造ることも

大切です。しかし小浜西部地区に子どもたちの姿が見えなくなり、子どもたちの声が聞こえなくなるのはとても寂しいことです。明日を担う子どもたちの為に、旧小浜小学校跡地にはぜひ幼児教育施設を考えてほしいと思います。(小浜西組在住女性より)



小浜西組

町並み協議会からの

お知らせとお願い

*町並み保存資料館にて「布わらじとぞうり展」の開催中にオークションがおこなわれていました〈特大わらじ〉の売上金の一部を当協議会に頂きましたので『小浜西組町並み協議会町づくり基金』へ入金させていただきました。

*町並み視察研修のバス席にまだ余裕がありますので、参加ご希望の方はお申込みください。

日 時 平成 21 年 11 月 15 日(日) 7:15 若狭ふれあいセンター集合

研修先 岐阜県 美濃市(重伝建地区)

参加料 4,000円 ※当日集金します

問合せ先：澤口 53 - 2327
石野 52 - 4684

*飛鳥区の新美宅の整備が進んでいます。11月頃から入居可能となります。入居希望者がありましたらぜひご紹介ください。

*町並み保存資料館では 10 月 11 日から 11 月 7 日までとても楽しい手芸作品展を開催しております。ぜひ資料館へお越し下さい。



*11月の町並み保存資料館の休館日が変わります。

11月3日 文化の日(火)開館、11月4日(水)休館になります。